

家紋、梅の折枝三連の上羽蝶、

〔寛永諸家系圖傳 四十七〕大河内

家紋三連の蝶の内に十六葉の菊、

〔諸家系圖纂三十三 桓武平氏〕宗系圖

家紋 四目結 蛇目 二引兩

〔太平記五〕時政參籠榎島事

鎌倉草創ノ始、北條四郎時政、榎島ニ參籠シテ、子孫ノ繁昌ヲ祈リケリ、三七日ニ當ケル夜、赤キ袴ニ柳裏ノ衣著タル女房ノ端嚴美麗ナルガ、忽然トシテ時政ガ前ニ來テ告テ曰、汝ガ前生ハ箱根法師也、六十六部ノ法華經ヲ書寫シテ、六十六箇國ノ靈地ニ奉納シタリシ善根ニ依テ、再ビ此土ニ生ル事ヲ得タリ、去バ子孫永ク日本ノ主ト成テ榮花ニ可誇、但其舉動違所アラバ、七代ヲ不可過、吾所言不審アラバ、國々ニ納シ所ノ靈地ヲ見ヨト云捨テ歸給フ、其姿ヲミレバ、サシモ嚴シカリツル女房、忽ニ伏長二十丈計ノ大蛇ト成テ、海中ニ入ニケリ、其跡ヲ見ニ大ナル鱗ヲ三ツ落セリ、時政所願成就シヌト喜デ、則彼鱗ヲ取テ、旗ノ紋ニゾ押タリケル、今ノ三鱗形ノ紋是也、

〔寛永諸家系圖傳 二百五十二〕川田

家紋、波に蓑龜、

〔寛永諸家系圖傳 二百五十八〕椿井

家紋、裏菊、或は榮螺、

〔諸家系圖纂十三 桓武平氏〕遠藤 家紋、龜甲、

〔寛永諸家系圖傳 二百四十七〕松風

家紋、三龜甲、